

ニラ

使用産地：北海道、栃木県など

使用目的：

ニラは一度植え付けると2～3年は継続して栽培が行われるため、栽培期間途中で株養成のための土壌改良が出来ません。ニラは肥料の全吸収量の70%内外を、9～10月にかけて吸収と言われています。この肥料吸収には、定植から10月頃までの根張りが関係しており、9～10月の根株の充実に大きく影響します。

以上の理由から、良質な完熟堆肥や有機質資材を十分に施して深耕し、根圏となる土壌の改良が肥培管理以前の重要課題となります。

ニラの根は、その90～95%が表層20cmまでの作土層に広範囲に分布するため、より深く作土層を広げるために堆肥などの有機物と合わせてコフナを全層に深耕します。

使用方法：

<苗床（育苗培土）での使用方法>

セルトレイを用いる場合

使用時期：可能であれば播種・定植前の1ヶ月前まで

使用数量：育苗用コフナ（フランスコフナ） 培土に対して1.5%の割合

使用方法：混和

その他：pH管理に注意

苗床の場合

使用時期：播種2週間前までに

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 1袋/1a

使用方法：有機質主体の元肥と一緒に施す。

<本圃の土壌改良>

完熟堆肥施用の場合

使用時期：定植1ヶ月前頃までに

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 10袋以上/10a

使用方法：元肥（有機質資材）や完熟堆肥とともに全層混和

完熟堆肥を施用しない場合

使用時期：定植10日から2週間前までに

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 15～20袋/10a

使用方法：元肥とともに全層混和

夏場に圃場が空く場合はコフナ・ソーラー法を実施

実施時期：日照時間が長い夏場など

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 15～20袋/10a

使用方法：全層にコフナ・資材他を投入・混和・水分調整を行い被覆（マニュアル参照）

実施期間：1ヵ月半～2ヶ月以上

目的：残根・古株分解促進のため

改植時に施用する場合

実施時期：収穫終了後の株すき込み時

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 10～15袋/10a

使用方法：収穫後の株を一緒に全層すき込み

目的：残根・古株分解促進のため

<定植時の活着促進>

使用数量：フランスコフナ 必要に応じて（1株＝約70g）

使用方法：溝施肥

効果：①活着促進。②発根促進

<追肥施用時>

使用数量：コフナ1号 3袋/10a

使用方法：追肥と一緒に散布。

効果：①発根促進。②肥料効きの向上。

その他：アミノ酸肥料との併用が効果的。



（北海道上磯郡知内町のニラ）